

教育資料室だより

No.24 令和6年(2024).4.1

発行 桐生市教育資料室(西小学校内)

桐生市小曾根町1-9 電話・FAX 0277(43)3171

歩いて 見つけて 味わって

ふるさと探訪 (3)

桐生市内文化施設とのコラボ企画

「百年前の桐生ってこんな感じ」その3です。今回は第19・21号、その1・その2で紹介しきれなかった建築物を取り上げました。100年前の桐生にもう少しお付き合いください。



参考：「写真集桐生市80年(あかぎ出版)」

「きりゅう百景(株アズ)」

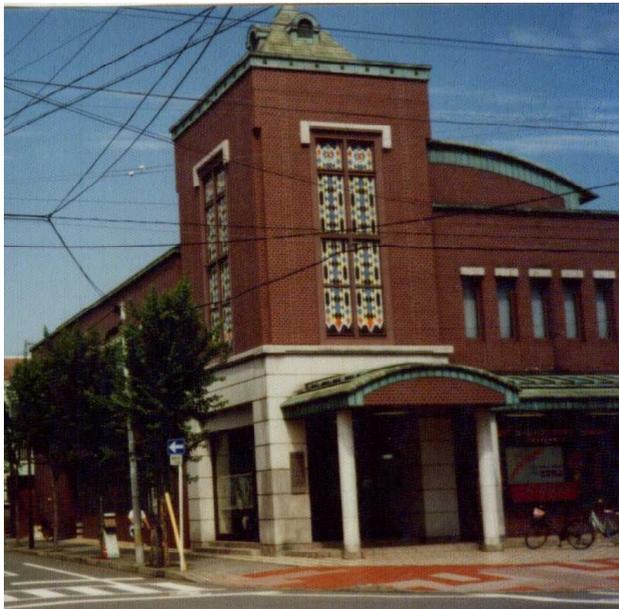
「きりふのしほり(川嶋伸行)」

「関根昇アルバム(教育資料室蔵)」



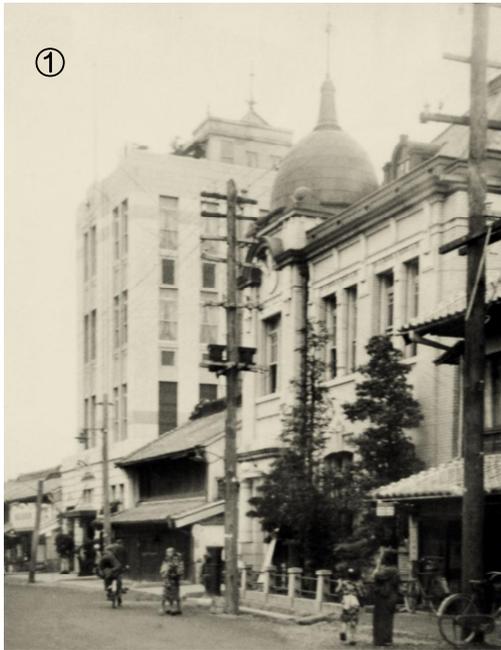
森家住宅 (本町一丁目)

上は令和、下は昭和末期から平成初期の撮影
森家は江戸時代から続く旧家で、機業、買継、金融業等で財をなしました。森宗久、宗作氏は桐生の産業・経済・教育・文化・社会事業等に多大な貢献をしています。森産業創業者の森喜作氏、歴史学者の羽仁五郎氏の生家でもあります。



桐生信用金庫 右は改築前、上は改築後の現本町支店
第21号3ページの写真にもあったように、大正8年に建てられたこの建物は、日本建築学会近代名建築物選にも入る建物でした。道路拡幅に伴い、移転保存にも多額の費用がかかることなどから、創建当時の雰囲気を残す形で建て替えられました。 [本町3丁目]





①



②

旧 足利銀行桐生支店 丸いドームがある建物 (写真①②)

大正6年(1917)竣工 四十銀行(後の第一勧業銀行)本店に対抗するかのよう建てられたルネサンス様式の瀟洒な建築物です。隣は金善ビル。②は桐生市制三十周年(1951年)撮影と推測できます。



③

金善ビル [本町5丁目]

(国登録有形文化財)

大正10~14年(1921~1925)頃の建築。ビルの名称は、初代金居善太郎の屋号である「金善」を使用しています。構造は建物中央の独立柱を中心に四方向へ梁が架かり、各壁面中央部のみに柱が建てられ、四隅には柱がなく、ラーメン構造と壁構造とが混在する建物となっています。内壁は漆喰塗、各柱には柱頭飾が施され、他にも天井や梁、開口部周りにも漆喰による装飾が見られます。このビルは、地方都市に存在する鉄筋コンクリート造の建造物の過渡的な形態を持つ極めて貴重な存在です。(桐生市Webページから引用、一部改変)

③道路拡幅前。「野村證券」の看板がかかっています。店先や自動車がいかにも昭和時代といった感じです。

④2020年撮影

⑤隣に昭和時代の足利銀行があった頃の写真です。



④



⑤

第21号3ページ下にも、2つのビルが小さく写っています。



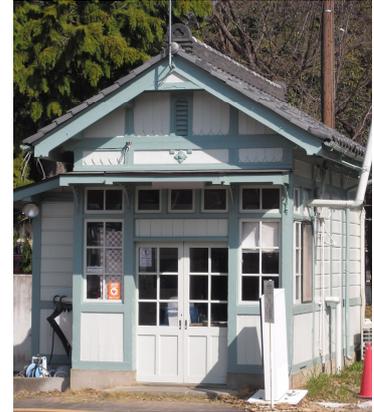
↑ 守衛所＝旧桐生高等染織学校の
記念会館内部 門衛所 ↓

群馬大学工学部同窓記念会館 [天神町1丁目]

＝ 旧桐生高等染織学校本館・講堂 (国登録有形文化財)

大正4年(1915)の建築。官立桐生高等染織学校は、大正9年(1920)桐生高等工業学校と改称。さらに桐生工業専門学校、群馬大学工学部と変遷していきました。高等染織学校の設立にあたっては、桐生町、織物同業組合、町有志から多大な寄付がありました。

NHKの朝ドラ「花子とアン」…平成26年(2014)上半期…のロケにも使われました。正門と守衛所も国の有形文化財に登録されています。



桐生倶楽部 大正8年(1919)竣工
[仲町2丁目] (国登録有形文化財)
左は正面 右は後ろ側の庭園から撮影

社団法人桐生倶楽部は、市内の産業人が会員相互の親睦と実業の発展を目的に組織した社交クラブです。講演や出版活動を行い、桐生の文化向上に果たした役割は大きく、現在も活動しています。屋根には赤瓦を用い、上げ下げ窓、切妻の屋根をのせた煙突、出入り口上部を半円形にするなどスパニッシュ・コロニアル様式の住宅風な建築です。 ※「きりゅう百景」(H20 佐々木正純・著 株アズ発行)より引用



←昭和9年(1934)建築 外壁はスクラッチタイル張り。屋根は青緑色の日本瓦葺。2階の窓にはステンドグラスも使われています。

昔の警察署 ↑ 現存せず
第19号に掲載した織物会館旧館現織物記念館と桐生市警察署右隣です。いずれも撮影年不明

織物会館旧館 (国登録有形文化財) 永楽町